

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1195

令和7年10月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ヒガンバナ（生野区の公園・大阪市内）

トピックス：森林環境教育プログラム「森の探検隊」と学習ルートの整備
（箕面森林ふれあい推進センター）

ニュース：森林整備課、三重森林管理署、島根森林管理署、福井森林管理署

花草木：ヨウシュヤマゴボウ

我が署のスタッフ：和歌山森林管理署

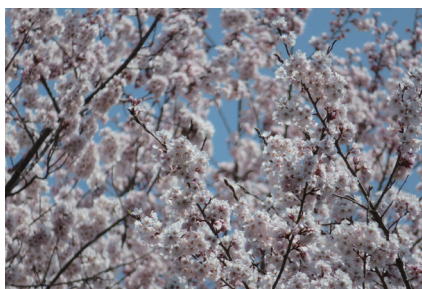
森林事務所等紹介：郡山森林事務所（奈良森林管理事務所）

国有林最前線：島根森林管理署

森林環境教育プログラム「森の探検隊」と学習ルートの整備

【箕面森林ふれあい推進センター】

箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールドである箕面国有林は、「明治の森自然休養林」、「明治の森箕面国定公園」に指定されていることもあり、国有林を含めた地域全体にハイキング道が整備されています。大阪市内から1時間程度で行くことができる手軽さもあり、自然との関わりや癒しを求める多くの市民に利用されています。



園内の花（エドヒガン）



園内の花（クロモジ）



園内の花（ミツマタ）



教科書にのっている植物（アカマツ）



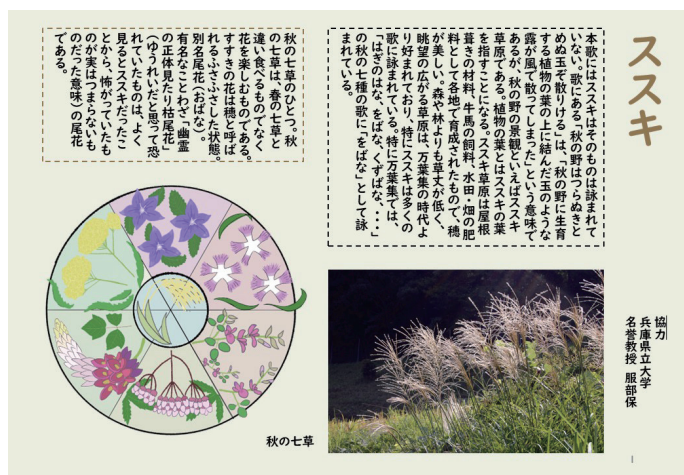
花の谷木道



園内の紅葉

こうした中、当センターでは、箕面国有林の「エキスポ'90記念の森」を森林環境教育のフィールドとしています。森林内での体験学習を通じて、人々の日頃の生活と環境や森林の関係についての理解と関心を深め・考える「森の探検隊」、小中学校の教科書に掲載されている植物を実際に見て知識を深める「教科書に載っている植物コース」を整備しています。

また、小学校で習う百人一首に出てくる植物を見て、説明看板で知識を高める「百人一首コース」の整備も進めています。



ススキ 百人一首（冊子）



教科書にのっている植物図鑑（冊子）

「森の探検隊」は、森の中にある指令書を探検マップで探し出し、書かれている問いかけに対してみんなで考えを出し合い、記録・探検することで五感で森林を楽しむことを目的とする小学生対象の森林環境教育プログラムです。さらに、学校に帰った後も、指令書の内容や撮影した写真を自分たちで考えながら調べることで、より理解を深めることができます。

現地での実施方法について説明します。

- ① 班編成：一班5～6人程度で協力をしながら行動する。
 - ② 班の役割分担：リーダー（1名）、記録係（1名）、カメラ係（2名）、採取係（1名）などそれぞれの役割分担をする。
 - ③ 探検する選定：エキスポの森内に探検ポイント（指令書）23箇所の中から「森の探検隊 探検MAP」で探検ポイントを決める。
- これで準備万端、指令書を探しに出発できます。



森の探検隊「指令書」



森の探検隊 小学生が挑戦



森の探検隊「ヒント」

令和6年度は、令和6年11月21日（木）に豊能町立東能勢小学校5年生16名がチャレンジしました。児童は2班8名ごとに分かれ、班ごとに役割分担を決めるとともに、各班に職員が加わり「指令書」にある森林にまつわる謎にヒントを出しながら解いていきました。吸収力が高く、好奇心旺盛な児童たちは、道端にある草木への質問や疑問を職員に投げかけ、一緒に楽しむことが出来ました。児童からは、「もっといろんなところに行きたかった」「違う探検ポイントにも行ってみたい」「たくさんの探検をしたい」など、嬉しい感想をいただきました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、多くの来園者に楽しく森林の知識を深めていただく取組をしております。

これから紅葉の始まる箕面の森で、小鳥のさえずりを聞きながら森林散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。



森の探検隊チラシ

「緑の守り手認定事業者」への認定証の授与について

【森林整備課】

令和7年9月2日（火）に近畿中国森林管理局において、「緑の守り手認定事業者」への認定証の授与式を行いました。

緑の守り手認定制度については、森林土木工事の事業者の皆様が、平常時には地域のボランティア活動、災害時には最前線で地域の安全・安心の確保を担うなど地域を支える担い手として果たされている役割・貢献を「見える化」し、地域住民等の認知度の向上を図ることを目的としています。

認定に当たっては、事業者の「森林土木工事の継続的な受注を指す継続貢献」「災害対応活動」「国土緑化活動」「ボランティア活動」「環境配慮」「労働安全」「人材育成」「ICT 施工」の8つの取組実績をもとに審査し、認定グレードは、プラチナ、ゴールド、シルバーの3段階となっています。今回の認定では、プラチナグレードの認定事業者は1者、ゴールドグレードは7者、シルバーグレードは11者という結果になりました。

当日の授与式では、プラチナグレードとして認定された別府建設株式会社に近畿中国森林管理局長から認定証の授与を行い、局長から、緑の守り手認定事業者として今後も誇りを持って事業を継続していただくようお願いするとともに、別府建設株式会社からは「このように認定いただいたことは社員にとって、たいへん励みになる。引き続き努力をしていきたい。」という力強いお言葉をいただきました。

当局においても、引き続き、地域の守り手である森林土木事業者の皆様を対象とした「選ばれる森林土木」に向けた取組を継続していきます。

なお、ゴールド、シルバーの認定事業者の皆様には、最寄りの各森林管理署長等から認定証を授与することとしています。



認定証授与式の様子



認定事業者からのお言葉

詳しくは、下記のホームページ「緑の守り手認定事業者の公表について」をご覧ください。

(https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/apply/publicsale/20250529_mamorite.html)



令和7年度夏期就業体験実習（インターンシップ）を実施しました。

【三重森林管理署】

例年、この時期に森林管理局・署等では、大学生等の方々の学習意欲を喚起し、高い職業意識の醸成や国有林野事業および林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的に就業体験実習（キャリア実習及びインターンシップ）を実施しています。

三重森林管理署では、令和7年9月1日（月）から9月5日（金）の5日間、岡山大学大学院環境科学自然科学研究学科1年生、公立鳥取環境大学環境学部環境学科3年生、近畿大学農学部環境管理学科3年生の3名を受け入れ、就業体験実習（インターンシップ*）を実施しました。台風の影響により、一部日程を変更しましたが、概ね予定どおり国有林および市場などの関係機関での様々な現場において、実施することができました。

【主な日程】

- 1日目：伊賀市長への表敬訪問、ふれあいイベント実施に向けた伊賀市担当者との打合せ、現地踏査
- 2日目：森林整備事業の実施状況の確認や来年度生産事業の現地確認とドローン撮影
- 3日目：木材市場や製材工場の視察、空中写真、オルソ画像の基礎、撮影したドローン撮影のオルソ化
- 4日目：緑の守り手認定証授与の取材、ホームページ掲載用原稿の作成
- 5日目：森林官の仕事、降雨後の危険個所の確認、獣害対策（くくり罠の設置方法）、若手職員との意見交換



イベント実施個所の現地踏査



空中写真、オルソ画像について説明



森林官の仕事について説明



木材生産現場を確認



木材市場を視察



若手職員との意見交換

5日間の就業体験後、実習生からは、「大学で勉強していることと現場での実態が繋がった」「5日間だったのが短く感じた」「国家公務員という漠然としたイメージしかなかったが、明確になった」「林野庁に就職したいという気持ちが強くなった」との感想が聞かれ、就職先を検討する彼らにとって、とても有意義な5日間になったのではないかと思います。また、同行した若手職員への良い刺激にもなっているようでした。

三重森林管理署では、今後も国有林野事業および林野行政に対する理解を深めてもらうため、就業体験実習を実施してまいります。

※インターンシップ：実習対象の人は、応募書類提出時点で、卒業・終了前年度ないし卒業・終了年度の大学・大学院等の学生（日本国籍を有する方）。なお、受入期間は5日間以上1か月間以下となります。

安来市吉田交流センターで森林教室を開催しました。

【島根森林管理署】

令和7年8月4日（月）に、安来市吉田交流センター（以下センター）から依頼を受け、寿会（ふれあいの森協定相手方）及び島根森林管理署による森林教室を開催しました。午前中は「吉田子ども塾」として、センター主催で夏休みの宿題等を行い、午後から森林教室を行いました。12名の子どもたちと寿会が参加して、紙芝居、木工工作及び丸太切りを行いました。



紙芝居（森林の働きについて）



丸太切り



木工工作

島根森林管理署では、このような活動を通じて豊かな森林を育むことの大切さを知っていただくために、引き続き環境教育や森林教室などに取り組んでまいります。



集合写真

森の巨人たち100選「桃木峠の大杉観察会」を開催しました！

【福井森林管理署】

令和7年8月3日（日）に、山の日を記念して森の巨人たち100選「桃木峠の大杉観察会」（主催：桃木峠の大杉保全協議会、共催：福井森林管理署、阪谷公民館）を開催しました。

桃木峠の大杉は、大野市の経ヶ岳^{きょうがたけ}国有林に所在する樹齢500年以上と言われるスギの巨木です。現在の福井市で生まれ白山^{はくさん}を開山した泰澄^{たいちよう}大師が、峠を通過する際に食事し、食後に地面に突き刺した箸が成長して大杉になったという伝説があります。大野市指定天然記念物に指定されており、平成12年に「森の巨人たち100選」に選定されました。

当日は参加者約20名が、集合場所の大野市阪谷公民館からマイクロバスに乗り合わせて大杉に向かい、現地で桃木峠の大杉や周囲の自然観察を行いました。また、森林への理解を深めてもらうために森林管理署で用意した森林に関する紙芝居とクイズを実施しました。

参加者は山道に不慣れな方もおられ、バスを降りてから大杉までの約5分の道のりを苦労しながら歩いていましたが、幹回りが8mもある大杉を見ると、その迫力に圧倒されつつも、笑顔で大杉に触れたり、参加者同士で記念撮影をしたりしていました。子どもたちは、大杉の幹回りの計測を楽しそうに手伝い、紙芝居の読み聞かせやクイズでは一番前に座り話に耳を傾け、積極的にクイズに答えていました。

日頃、大杉の保全活動を行う桃木峠の大杉保全協議会や地域住民の方々に感謝するとともに、福井森林



大杉の看板前での集合写真

管理署も大杉を後世に引き継ぐことができるよう責任をもって保全に努めてまいります。

夏休み子ども自然観察会（おおしど大志戸国有林）を開催しました。

【島根森林管理署】

令和7年8月2日（土）、連合島根と「社会貢献の森」として協定を結んでいる大志戸国有林内の「連合の森」において、「夏休み子ども自然観察会」が開催されました。

主催は連合島根、森林労連島根分会、連合島根雲南地区会議によるもので、子ども52名、家族スタッフ併せて128名が参加しました。

今年の自然観察会では、「紙芝居」「木工教室」「魚つかみ体験」の3つのプログラムを行いました。



紙芝居の様子



木工教室（完成した作品）

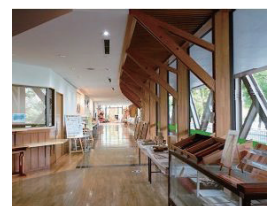
島根森林管理署では、「紙芝居」「木工教室」を担当し、森林教育として子供たちに木材の特性や森林に興味を持ってもらえるよう取り組みました。今後もこの活動に協力してまいります。



集合写真

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○現在の展示は、令和7年10月1日（水）～10月23日（木）島根県、技術普及課・資源活用課が行っています。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○「水都おおさか森林（もり）の市 2025」を開催します。

【開催日】令和7年10月26日（日）10時～

【テーマ】「行こう！万博の次は森林（もり）の市だ！」

【場 所】毛馬桜之宮公園・桜ノ宮合同庁舎

（JR大阪環状線「桜ノ宮」駅西口から徒歩5分）

最新情報は下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



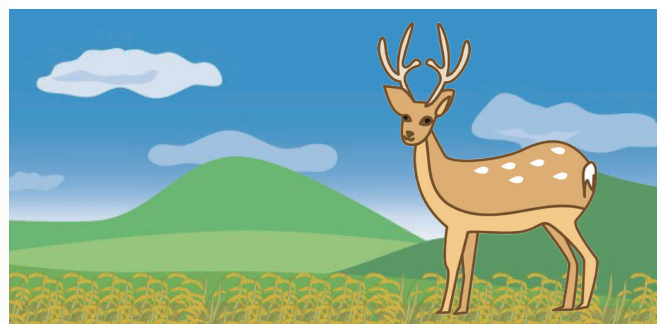
【島根森林管理署】

○ 再造林の推進に向けたシカ被害対策に係る現地検討会の開催について

【開催日】令和7年10月30日（木）

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/simane/information/20250916.html>



花草木

【ヨウシュヤマゴボウ】

ヨウシュヤマゴボウ（洋種山牛蒡、学名: *Phytolacca americana*）は、北アメリカ原産の多年草で、日本では明治時代初期に渡来し、現在では全国に広く分布する帰化植物です。高さは1～2mに成長し、6月から9月に白っぽい淡い紅色の小花を咲かせ、秋には見た目が美しいブドウのような黒紫色の果実が熟するのが印象的です。

しかし、全草に毒を持つ有毒植物ですので、誤食しないように気を付けましょう。特に果実の種子は危険です。市販されている「山でぼうの漬物」は、キク科のモリアザミやゴボウの根であり、ヨウシュヤマゴボウとはまったく別物です。絶対に間違えて食べないように注意しましょう。また、果実を潰すと赤紫色の果汁が出るため、「草木染め」の染料として布や糸を染めるために使われることがあります。

花言葉は、「元気」「野生」「内縁の妻」などです。



大阪市内の道端で咲いていた
ヨウシュヤマゴボウの果実

我が署のスタッフ 和歌山森林管理署

正司 康智（しょうじ やすのり）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として災害箇所の復旧などの業務を行っています。採用2年目となった今年度は、初めて治山工事の監督を任せられ、治山ダムの測量設計から、工事の発注・監督・検査に至るまで、勉強しながらではありますが実行することができました。自分が想定していたよりも事務に時間がかかることも多く、前倒しで仕事を進めていく大切さを日々痛感しています。

【職場の雰囲気は？】

明るい職員が多く、毎日のように仕事以外でも声をかけてもらえます。庁舎のそばに官舎が集まっていることから、みんなで集まって飲むこともあります。職員の中には、実家が農家、狩猟免許を持っている方などバラエティーに富んでおり、差し入れをいただくこともあり、アットホームでにぎやかな雰囲気の職場です。

【林野庁の魅力は？】

現場での仕事と室内での事務作業が両方バランスよくある点です。大体は週に1回から2回ほど現場に行くことが多いですが、多いときは一週間続けて現場に行くこともあります。



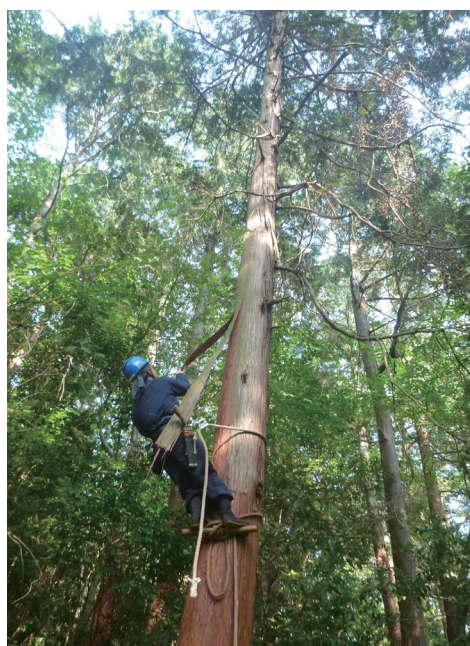
治山工事における監督業務（材料確認）の様子

森林事務所等紹介

郡山森林事務所 (奈良森林管理事務所) 森林官補 碓谷 太成 (いかりや たいせい)

郡山森林事務所では、約 528ha の国有林を管理しています。古事記や万葉集など数多くの歌が詠まれる大和^{やまと}三山^{さんざん}、歴史的建造物の修復等に必要な木材を生産する「古事の森」のある地獄谷^{じごくだに}国有林や野山^{のやま}国有林など、日本の歴史や文化と関わりの深い国有林が数多く存在しています。

今年度は、野山国有林で 12 年ぶりの檜皮^{ひわだ}採取が行われました。檜皮とは、文字通り檜^{ひのき}の樹皮のことで、檜皮葺^{ひわだぶき}として、日本を代表する建物、奈良の法隆寺や京都の清水寺といった国の重要文化財の檜皮葺きの屋根の修復に用いられています。



檜皮採取の様子

今回は 2 週間にわたって 4 人の原皮師^{もとかわし}※¹ が檜皮採取を行いました。僅かな道具と己の身体のみで檜に登り、皮を剥いていく様はまさに職人技です。

期間中には大学生の就業体験も行われたので、奈良の特徴ある国有林の紹介として見学してもらい、奈良森林管理事務所内の職員も現地で勉強会を実施しました。

檜皮採取とは皮を剥いておしまいではありません。剥いた皮を束にし、大切包丁^{おおぎり}で切断、結束するまでが原皮師による仕事です。ここで採取された檜皮はその後、屋根に使えるよう整形され実際の檜皮葺に利用されます。

今回のような檜皮採取は国有林でも限られた場所で約 10 年に一回しか実施されないことから、とても貴重な経験となりました。

同時に、国有林野が日本の歴史や文化の場として利用され、技術の継承に貢献していることは、国有林野が果たすべき役割の一つでもあり、木材生産や森林整備のみならず、文化の継承地としての国有林野の価値を見て取れました。



大切包丁で束ねた檜皮を切断する様子

このように、郡山森林事務所では、日本の歴史や文化に根差した国有林が多くあります。それらの管理を通して、自分もその継承に携われることに誇りとやりがいを感じながら働いています。引き続き森林官として、林野巡視等を着実にを行い、健全な森林環境を整備し、奈良の歴史・文化の継承に貢献できるよう努めてまいります。

※ 1 原皮師：檜皮を採取する技術者。

※ 2 石窟仏：岩山や岩場に彫られた仏像。



地獄谷石窟仏※² (地獄谷国有林)

シリーズ『国有林 最前線！』

国立公園『三瓶山』への貢献

島根森林管理署

三瓶山は、島根県のほぼ中央部、大田市と飯南町にまたがる活火山です（標高：男三瓶山^{おさんべさん} 1,126m）。大山隠岐国立公園の一部で、日本二百名山に選ばれています。

今回は、島根森林管理署における三瓶山^{さんべさん}国有林（707ha）の地元等への貢献について紹介します。

○登山道の安全確認

平成 30 年 4 月 9 日に発生した島根県西部地震により、三瓶山国有林の登山道において複数の亀裂が確認されました。

三瓶山は登山者が多いため、亀裂の拡大や登山道に崩壊等危険な個所が発生していないか、毎年山開き前の 4 月に環境省、島根県、大田市及び地元警察署と連携し、登山道を踏査しながら安全確認の調査を行っています。

現在は、亀裂について拡大は認められず、危険個所については、ロープや注意看板の設置を行っています。



クラック調査

○山頂トイレ

今年 7 月に、三瓶山の男三瓶山に山頂トイレが整備されました。三瓶山は子どもを含む幅広い世代が登山で訪れますが、トイレの整備は長年の課題でした。

トイレは中国四国地方環境事務所に貸付（225㎡）した箇所に、環境事務所や大田市などが連携し建設されたものです。トイレは環境に配慮し、汚物は浄化槽で微生物を使って分解し、汚水も浄化・循環させる仕組みで、処理能力は一日当たり延べ 270 人。事業費は 1 億 6 千万円でした。これからも三瓶山を安心、快適に利用していただくよう協力していきます。



三瓶トイレ

○三瓶山西の原火入れ

三瓶山周辺では、地元の方々の努力により、草原環境が保全されています。中でも西の原では草原性の希少な昆虫や植物の生息環境を維持するため、大田市を中心に環境省、島根県などが協力して毎年 3 月末に火入れを行っています。豊かな生態系とは森林だけに存在するものではないことも再認識できる行事であり、島根署からも毎年職員が火入れに参加しています。火入れ後、数週間で新緑のきれいな草原に生まれ変わります。



火入れ